（別紙５）

公表　事業所における自己評価結果

事業所名	運動療育型児童デイスーパーキッズ木津川校

公表日 令和8年1月10日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童福祉法の運営基準に満たしている。	引き続き、子どもたちが安全に過ごせるよう環境を整えていく。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		京都府の人員配置基準を１～２名多く満たしている。	現状の人員配置を継続していく。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		建築基準法と京都まちづくり条例の基準は満たしている。トイレ段差や出入口の狭さに関しては職員を配置することを徹底し対応する。	引き続き子どもが過ごしやすいように環境整備に努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空気清浄機の設置、空調整備や換気、ドアノブや机の消毒など感染防止に努めている。	今後も日々の清掃、換気、消毒等を徹底し誰もが快適に過ごせる環境作りを意識して実施していく。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室はないが、クールダウンできる場所を確保しており、支援に活かしている。	引き続き個々や状況に応じて場所を確保して安全かつ安心して過ごせるようにする。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日、報告会議にて振り返りや改善点など職員間で熟考し、会議に参加できなかった職員への伝達に努め今後の支援のあり方を共有している。	毎日のミーテングや報告会議を中心に、職員間で支援の方向性を共有し日々改善に努める。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		昨年度の自己評価表を事業所入り口に設置し、常に閲覧できる体制を整えている。LINEにて保護者の意向を把握し業務改善に繋げられようにしている。	保護者の意向を把握し、より良い支援と業務改善を行う。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		半年に一度、代表と部長を中心に職員面談を実施し、意見を反映できるように努めている。	積極的に職員の内外部研修等に参加しやすような環境を整え、職員の質の向上に努める。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現状では第三者による外部評価の設置はなし。	必要があれば外部評価の検討をする。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・月に一度内部研修を開催している。 ・資格取得費用の負担を会社が行い、支援技術や知識の資質向上を行っている。	外部研修費の会社負担の継続、OJTの強化。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		今年度支援プログラムの作成、公表を行っている。	認知度が低いので、保護者にわかりやすく公表できるよう努力する。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントシートをもとに日々の送迎時や面談にて相互の情報交換を行い、活動や支援に繋がる計画書の作成を行っている。	引き続き個々に合わせた放課後等デイサービス計画を作成していく。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		ケース会議を通し、個々のモニタリングを行い、意見交換や支援の修正などを話し合っている。	相談支援員との連携を強化し、また職員が意見を出し合い支援の方向性を共通理解していく。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		個々の支援方法の目標や計画を確認し、計画に沿った支援を行っている。	今後も職員一人ひとりが全体の状況を把握し個別支援計画に沿った適切な支援を行う。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		日々の行動観察に基づき確認できるようなアセスメントが実施できている。	ケース会議や日々のミーティングを通して個々の状況を確認して職員間で検討してより良い支援に繋げていく。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		「本人支援」「家族支援」が中心になっているが、「移行支援」「地域支援・地域連携」のねらいや支援内容を踏まえて、個々の願いやニーズに沿った支援内容を設定している。	相談支援員の協力を得て「移行支援」「地域支援・地域連携」を強化できるように地域資源を生かし、個別支援計画書に反映していく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		職員一体となって新しいアイデアの提案、して実施し振り返りを行い、次回のプログラムに繋げている。	プログラムを円滑に実施できるように早い段階から職員全員で立案を図っていく。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの発達段階や季節にあわせて多種多様なプログラムを企画している。	子ども達の好きなプログラムの頻度を増やしたり、面談時に希望するプログラムや好きなプログラムを聞いて検討していく。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		・社会性と協調性を高め、コミュニケーションの能力を養える目的で集団活動を多く取り入れている。 ・個別活動もイベントの中で取り入れている。	子どもの状況に合わせて個別活動と集団活動をうまく組み合わせてより良い支援に繋げていきたい。

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日ミーティングにて支援内容や活動の役割分担等を確認し、支援が円滑に進むようにしている。	引き続き、ミーティングにて確認をしっかり行い連携して支援を行う。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に報告会議を行っており、その日の良かったことや問題点をフィードバックし、次回に行かせるように情報共有している。	引き続き、報告会議をしっかり実施して職員間で情報共有を行う。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		保護者向けに連絡帳をラインにて送信し、事業所の記録としてケース記録を作成し、それらを参考に評価改善など支援の質の向上に努めている。	今後も正確な記録を残し、支援の質の向上に繋げる。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		6か月ごとにモニタリングを行い、見直しを図っている。	引き続き、丁寧なモニタリングを実施して放課後等デイサービス計画の見直しを行う。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		「４つの基本活動」を意識し、保護者への意見に耳を傾け、支援を進めている。	引き続き実施する。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもが自ら考えて選択し行動できるような声掛けや提示を支援の中に取り入れることを心がけている。	集団活動のなかで自分で考える場面や自己決定できるよう選択肢を提示することで子ども達の生きていく力を伸ばしていけるような支援を継続していく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		必要があれば相談支援員に連携を取り、児童発達支援管理責任者と担当職員が対応する体制を整えている	引き続き、他事業所や相談事業所との連携を図り、支援の統一化、より良い支援に繋げられるように努める。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		こどものケースに応じて教育機関や他事業所などの連携を取っている	引き続き他機関との連携を大切にして子どもや保護者へのより良い支援に繋げる。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		子ども通っている学校とは、送迎時や電話、ファックス等で必要な情報共有や連絡を取り合っている。	引き続き実施する。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要に応じて対応している。	利用者の情報を聞かれた場合に対応する。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		必要に応じて対応している。	今のところ学校を卒業した児童はいないが、そのような時には必要な情報提供を行っていきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。		○	機会があればお願いしたいと思っている。	今後検討していきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域の高校生を招いてイベントを実施したり、地域の学校のイベントに参加する機会があった。	今後も地域に開けた事業運営を意識し、地域の子どもと交流していきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		児童発達支援管理責任者、代表が会議に参加して研修や他事業所との交流を行っている。	引き続き実施し、地域の他機関との連携を強化していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時や面談時に子どもの発達や課題の共通理解を持てるように情報共有を行っている。	引き続き丁寧に保護者との連携を取っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	現在ペアレントトレーニング研修などは行っていない。保護者の悩みや相談があった時には随時面談を行って対応している。	保護者からの要望に応じて機会があれば検討していく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に代表から説明している。	必要に応じて個々に丁寧な説明を行っていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		個別面談等にて保護者の意向と子どもの願いを聞き取っており、支援に繋げられるようにしている。	引き続き丁寧な聞き取りを行い、保護者と子どものニーズに応じた支援を実施していく。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		放課後等デイサービス計画を保護者に説明して確認していただいた上で同意を得ている。	引き続き丁寧に実施する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		個別面談や送迎時等にて悩みに対する助言を行っている。	引き続き丁寧に対応して、保護者の安心に繋げられるように努める。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	各家庭によって賛否両論あり、慎重に対応している。スーパーキッズフェスタを通して保護者同士で繋がりを持てた家庭もあった。	保護者の要望を聞き取り、必要に応じて対応していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情については、迅速に対応しており、相談や申し入れに対しては保護者の思いに寄り添いながら対応している。	引き続き管理者、代表を中心に丁寧に対応する。

等	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月10日に「スーパーキッズ通信」をラインで発信してイベント内容や連絡体制等の情報を提供している。	引き続き実施するが情報を見落とされているご家庭も多く存在しているため、周知徹底できるように工夫する。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		動画撮影に関しては契約時にて同意書を得ている。	・LINEでの動画送信に誤送を指摘されたので問題点として真摯に受けとめ誤送信がないよう徹底していく。 ・他校が送迎することも多いので提出物や配布物の間違いが内容に引継ぎを丁寧に実施する。 ・個人情報の取り扱いを丁寧に行うように職員間で徹底する。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		相談支援員との連携で事業所内で不十分なところを補っている。	相談支援員との連携を中心にケース会議を充実していく。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		南陽高校のマジック部との交流を筆頭に開かれた事業所を目指している。木津高校のイベントにも参加している。地域の消防署へ見学したり、警察署からきていただき安全教室を実施した。	引き続き地域に開けた事業所運営に努めていく。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		LINEにて各種マニュアルの告知をしました。職員全体研修でマニュアルの確認と共有を行った。	引き続き保護者へ周知がしっかりされるように丁寧に発信していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画(BCP)をもとに、地震、火事、水害、不審者対応の訓練活動を行い、オフィシャルLINE(連絡帳)にて当日来所の子どもの保護者へ訓練実施の様子を動画や写真で伝えた。	保護者評価集計シートの結果により周知が徹底されていないようなので、予定表に分かりやすく記載したり、通信にて事前に案内していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時に保護者からの申し出や調査票により状況把握と職員共有を行い、要観察児童の送迎に関わる同意書及び事業所内で発作が起こった場合のマニュアルを作成している。	引き続き丁寧に実施する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		事務所の冷蔵庫前に掲示して常に確認できる体制を整えており、クッキングのイベント時には事前にアレルゲンについて公表している。	新規契約児童のアレルギー表の更新を徹底する。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成し、内容に沿って支援を行っている。	職員の安全に対する意識が高まるよう安全管理に必要な研修の機会を増やしていく。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○		安全計画に基づく取り組みは作成済だが、周知徹底出来ていないので理解を得られるよう努力する。	より保護者に安全確保に基づく内容をわかりやすく告知していけるよう検討していく。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		その都度すぐに共有し安全面に配慮するようにしている。	引き続き事故を未然に防げるように職員間での情報共有をしっかり行っていく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		研修やミーティングにて対応などの指導を行い、常に虐待防止の意識を高めている。	全国などで起きている前例など実際の現場で起きている事例に挙げて引き続き研修していく。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		保護者と身体拘束の同意を得たうえで必要に応じて対応している。	引き続き、個別支援計画書に必ず身体拘束について記載し、保護者に説明、確認の上で同意していただく。